

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	平成 22年 6月 16日	評価結果市町村受理日	平成 22年 8月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2775502418&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2775502418&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく生き生きとした生活ができ、心身の状態が変わっても安心して暮らしつつげられる場所を目指していく
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が運営するグループホームです。駅近くの便利な市街地にありながら、近くに二つの公園、隣接地に広い野菜農園のある静かな地区に立つモダンな外観のホームです。室内は広く開放的で、ソファやベンチのある場所からは、大きな窓越しにベンチのあるポーチや菜園、隣接の広い野菜農園が見渡せ、食卓や壁には利用者が職員と一緒に作ったカラフルな可愛いアートフラワーが飾られ、七夕飾り、アップライトピアノやキーボードなどもあって、気持ちよく寛げる共有空間になっています。利用者は職員の調理した美味しい食事をいただき、職員の優しい介護とかかりつけ医師による往診診療、医療連携している訪問看護師による訪問看護を受け、安心してのんびりと過ごしています。
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の「自由」「尊厳」を大切にしたい生活の実現を理念としているが、日常業務の中での実践ができている状態ではない。	『家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』をホームの理念としています。定例のフロア会議やカンファレンス、毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	地域密着型サービスの意義をふまえた表現を盛り込んだ事業所理念を作り、管理者と職員全員で理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組み、利用者がより安心して楽しく過ごせるよう家族、地域住民と共に支えていかれてはいかげでしょうか。また、理念を職員が日常的に目につく場所に掲示することが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域に開かれた施設づくりを目指しているが、まだ限られた範囲での繋がりにとどまっている。	地域の町会に入会していますが、利用者と地域の組織や住民との交流はほとんどなく、定期的に近隣のマッサージボランティアを受け入れているだけで、地域の行事にも参加していない状況です。利用者は月2回、法人代表の紹介で音楽レクリエーションのボランティアを受け入れ、利用者と一緒に音楽を楽しんでいます。	管理者は、地域住民の人たちにも事業所の理解を深めてもらい、利用者が地域の行事への参加やボランティアとの交流ができ、地域情報の入手などの協力を得るため、より一層の地域の自治会や老人会、女性会(婦人会)、学校等に働きかけることが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	施設が地域の方の相談の窓口として活用される状況には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議へはできるだけ多くの方に参加していただき、各方面からの意見をいただきたいと考えている。現状では参加者が限られ、十分に意見をくみ取ったり反映させたりするに至らず。	運営推進会議は市担当職員、民生委員、家族の参加のもと、おおむね2ヵ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や行事、利用者の生活ぶりの報告を行い、医療機関との医療連携体制スタートや看取り方針、職員の研修内容などについて説明しています。	運営推進会議での情報や意見の交換をより充実させるため、自治会代表・老人会代表・女性会（婦人会）代表などをはじめとする地域組織の代表の参加を得るとともに、災害時の地域との協力体制や地域との交流の深め方についても話し合われてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	独断を避け、不明な点は市役所の担当者等の指導を仰ぎながら、適切な運営が行えるよう関係を保っている。	市の担当職員には、必要の都度相談や情報交換をし、事故報告書や運営推進会議、外部評価結果などを報告しています。	市との連携や事業者間の相互交流を深めるため、地域密着型サービス事業者連絡会行事への参加が望まれます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体としては、身体拘束のないケアを目指しているが、出入り口の電子錠の使用など、現状で解決の手だてのない課題も抱えている。	身体拘束のないケアを目指していますが、利用者の外出願望には見守りだけで対応できず、玄関に通ずるフロアドアに施錠しています。	利用者や家族への心理的拘束感を軽減するため、毎日の散歩や見守りの強化等を行うなどして、安全面に配慮しながら、日中の可能な時間帯だけでも鍵をかけないようにする工夫が求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない、させない、見過ごさないように、職員への啓蒙、教育を進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のおかれている状況から、制度の利用が必要と思える方には、制度利用のための支援を行っている。社内において、職員教育として研修する機会はあまりとれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容を平易な言葉で説明し、介護保険制度等への理解も含め、納得をいただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の代表として、推進会議への参加依頼を毎回行い、ご意見・要望等をお聞きする機会としている。また、意見箱を常設しており、自由に投書していただくとともに、投書内容へは真摯に返答していくことを心がけている。	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。また、家族とは介護計画作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるようにしています。意見箱も設置しています。	家族との交流や話し合いの機会を増やすべく、運営推進会議に多くの家族の参加を呼び掛けてはいかがでしょうか。また、それぞれの家族には毎月、ホームの連絡事項や行事等の報告とともに、利用者の生活状況・身体状況・受診状況等について、職員が手紙を作成して送付されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的で開催しており、運営面に関する職員からの意見も事業運営に反映させるようにしている。	職員とは定例のフロア会議やカンファレンスで業務の改善課題や研修、行事の企画などについて話し合っています。	定例の職員会議の時には研修の時間枠をとり、伝達研修や計画的な内部研修を実施してはいかがでしょうか。また管理者は6月に新しく着任したばかりであり、当面全職員との意思疎通と相互理解に努めるとともに、年に数回、職員と個人面談する機会を作られてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力やキャリア。意欲などを適正に評価するとともに、各自が自己研鑽に努めスキルアップできるような環境づくりをおこないつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた人員で日々の業務の運営にあたっているため、内部研修の機会があまり持てない状況であるが、外部研修機会の情報提供などを積極的に行っている。今後は、定期的な研修の機会を作り計画的に進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ実施できていない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接に関わる者が、その後も継続して本人に関わりスムーズな信頼関係の形成ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱える心配や不安を受容し、当方が果たす機能等を説明し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様の訴えに十分耳を傾け、当面する問題への助言やアドバイスなどを行って、利用者様に適したサービス利用が行えるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体であるべき利用者の方がお客様の扱いになることが多く、改善すべき課題であると認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が気軽に訪問していただければ本人と適度な距離を持つことで、よい関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と付き合いの会った方の訪問を奨励し、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。ご本人の希望する場所へでかけたりする機会はあまりできていない。	利用者が大切にし、大事に思う馴染みの人や場所を聞き取って支援につなげていますが、全職員が共通認識として把握できるような記録にはなっていない状況です。	入居してから年数の経った利用者もあり、その間多くの職員が入れ替わっています。入居当時に聞き取ったことが伝承されていない可能性や、入居当時に比べて利用者の状態が変化していることなどから、各利用者のなじみの人や場所を改めて聞き取り、全職員で情報を共有されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を配慮して利用者同士がよい人間関係が形成できるための支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できる範囲において、援助を行う準備はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族様にどのような生活を望まれているかをお聞きし、できるだけ近づけられるよう努めている。	利用者の希望や意向を聞き取り支援につなげていますが、全職員が共通認識として把握できるような記録にはなっていない状況です。	各利用者が入居後時間も経過して重度化もしていて、多くの職員も交代していることから、各利用者の思いや意向を改めて聞き取り、全職員で情報を共有するために、例えばセンター方式の「私の気持ちシート」等を活用して、家族と全職員で作成してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し、大きな混乱なく過ごしていただけるよう情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェック等を行い、心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となって、ご本人や家族様、ケアスタッフとのカンファレンスを通して介護計画を作成している。	介護計画は3カ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。毎月全職員によるカンファレンスを行い、計画作成担当者は3カ月毎にモニタリングを行い、家族の意見も聞いて介護計画の見直しにつなげています。	介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員によるモニタリングの定期的実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に利用者一人ひとりの援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録する方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を必ず記録に残し、変化の見られる時は、随時、カンファレンスを開いて計画作成・変更を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現場スタッフの力不足があり、柔軟な対応力には欠けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内での生活にとどまり、資源の発掘等にまで手が伸びていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選定は、本人および家族の意向を優先して決定し、安心して継続的な医療が受けられるよう支援している。	利用者は、それぞれのかかりつけ医師による往診医療と、医療連携している訪問看護師による訪問看護を受けています。診療科目によっては入居以前のかかりつけの医療機関への通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や訪問看護との連携し、日々の体調の変化があった場合に、速やかに連絡・相談ができ、適切な対応がこなえる体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった利用者の情報提供を医療機関に行ったり、そのような場合を想定した日頃の主治医との情報交換を行っている。また、退院に向け、医療機関と連携しスムーズな復帰がおこなえるよう関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	進行する疾病を持つ利用者の方や重度化傾向のみられる方には、今後の予想される状態の変化を主治医等からお聞きし、事前に家族等と相談・協議しながら生活のあり方を決めるようにしている。	看取りの実績はありませんが、利用者と家族には入居時にホームでの看取り実施の方針を説明しています。利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有し対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対処方法について、日頃から繰り返し説明する機会を作るとともに、スタッフの見やすい場所に手順等を記したものを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的実施するなかで、万一の場合への対処方法を身につける場としている。周辺地域の住民の協力をいただくまでには至っていない。	災害に備えるマニュアルを作成し、年に2回避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導のもとで行っています。災害時の備蓄についても実施しています。	避難訓練は夜間を想定したり、地域の人々にも協力を得るなど、訓練の内容をより実践に即したものに工夫してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣いや態度等に関しては、接遇教育の不十分なこともあり、利用者にたいして不適切な対応があることは否定できない。今後改善すべき大きなテーマであると認識している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務に追われる傾向にあり、ゆっくり余裕をもってご利用者の話を傾聴したり自己決定のための援助が不足している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースにあわせた生活ではなく、職員の業務の効率が優先される傾向が強い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身につける衣類の選択・決定はできるだけ本人の意向を尊重して決めていただいている。美容室などの利用も本人の意向に沿うよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の参加できる範囲で、一緒に調理や片付け等おこなっているが、まだ一部にとどまっていたり、利用者の意欲や能力を引き出せていない。	食事は食材を業者から取り寄せ、職員が調理しています。利用者は野菜の下ごしらえ、食事準備、調理、後片付けなどの得意な分野で分担しながら参加しています。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。利用者の誕生会や七夕祭りなどのイベントの時には家族も招待して、好みのメニューで利用者も買い物から調理まで参加して食事を楽しんでいます。誕生会のケーキは職員が手作りしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのひとに合った食事形態や嗜好を考慮し、また、その日の体調等に応じた適切な食事がとれるよう柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず口腔ケアを行い、口内が清潔な状態で過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日々のひとりひとりの排泄状況を把握する。そのひとりのリズムを掴んで失禁を減らし気持ちよい排泄が行えるよう援助している。また、プライバシーに配慮したトイレ誘導や排泄介助を行うよう努めている。	排泄の記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して誘導を確実に行うことで、リハビリパンツや布パンツでの生活が維持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足と水分不足に気をつけ、日中は活動的に過ごし、十分な水分摂取ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務の都合により入浴時間等が変動することがあり、改善すべき課題である。	週3回入浴する利用者もいますが、利用者は平均して週2回の入浴を楽しんでいます。	まずは、多くの利用者が平均して週3回の入浴を楽しめるよう、職員の体制を整備し、利用者の入浴意欲を向上させることが望まれます。
46		○安眠や休息の支援 ひとりひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの体調や状態を考慮し、フロアでの休息や自室での睡眠など安楽に過ごしていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師等と連携し本人の状態・症状に適した服薬がおこなえるよう援助している。また、状態の変化がみられる場合には、そのつど医療機関へ連絡し指示を受けて適切な処方が行えるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の生活歴や趣味・楽しみと していたことなどの情報を収集し職員 間で共有することで入居後もできるだ け楽しみの持てる生活が続けられるよ う支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸 外に出かけられるよう支援に努めている 。又、普段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられるよう に支援している	近くの公園への散歩や買い物などを 行っているが、まだ十分な機会が取れて いない。家族様との外出は推奨してい る。	時々近くの公園や買い物には出か けていますが、日常的な散歩の習慣に はなっていない状況です。家族と食事 や買い物に出かけることがあります。	強い外出願望に対応するためにも、日常 的に周辺散歩に出かける習慣作りを設 定することが期待されます。また、重度 化に合わせ、個別での外出企画の工夫 をされてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さ を理解しており、一人ひとりの希望や力 に応じて、お金を所持したり使えるよ うに支援している	これまでは、現金の所持は原則的に禁 止している。購入物があるときは、立 替で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支 援している	本人から電話をかけたたり手紙を出した いと希望があれば、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は適度な広さがあり、個々の所定の腰掛け以外にも自由に座れるソファがあり、利用されている。キッチンのお出入りも仕切りはなく自由に調理の場が見え、音や匂いもそのまま伝わるようになっている。	駅近くの便利な市街地にありながら、近くには2カ所の公園、隣接地に広い野菜農園のある静かな地区に立つモダンな外観のホームです。室内は広くフロア入口から見通しがきき開放的で、ソファや畳式ベンチのある場所からは大きい窓越しにベンチのあるポーチ、菜園が見え、隣接の野菜農園も見渡せる寛げる居場所になっています。食卓や壁には職員と一緒に作ったカラフルな可愛いアートフラワーが溢れ、アップライトピアノやキーボード、七夕飾りや絵画、レクリエーション道具もあって、落ち着いた共用空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにてゆっくりテレビを見たり、ソファに腰掛けておしゃべりしたり自由に過ごす空間があり、職員は落ち着いて過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使い慣れた家具等を置いたり趣味の品をかざるなど本人にとって落ち着いた快適な空間になるよう支援している。	居室の外には可愛いアートフラワー、立派な手書きの表札がかかり、広い室内には利用者が持ち込んだご自身のベッド、ソファ、エレクoon、整理ダンス、机、椅子、装飾品、家族の写真、テレビ、時計等があり、外出用の服や帽子が掛っていて、利用者が安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて福祉用具を導入し安全を確保したり身体の負担の軽減を図るよう配慮している。自室が認識しやすいよう似顔絵をドアにつけるなどの工夫を行っている。		